

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第28週[7月12日~7月18日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

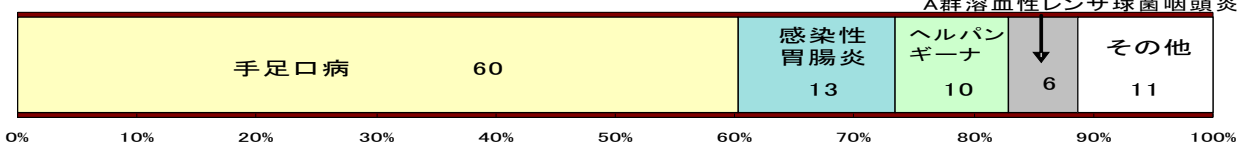
○ 患者情報総評

警報発令疾患：手足口病

注意報発令疾患：ヘルパンギーナ、マイコプラズマ肺炎

- 週の前半は雨や曇りの日が多かったが、週末には梅雨明けし晴れて気温も上昇した。
- 手足口病（高知市：警報→警報，幡多：警報→警報，高幡：警報→警報，中央東：警報→警報，安芸：警報→警報，中央西：警報→警報）は中央西と高幡では引き続き減少したが，その他の地域で増加し，総数はさらに増加した。
- ヘルパンギーナ（中央西：警報→警報，高知市：注意報→注意報）は中央医療圏でやや増加したが，その他の地域で減少し，総数は引き続き減少した。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（高知市：注意報→注意報）は安芸を除く地域で増加し，総数は前週の約1.4倍に増加した。
- 水痘は高知市と安芸で増加したが，その他の地域で減少または横ばいとなり，総数は大幅に減少した。例年通りであれば，今後も減少傾向となり，10月頃までは低いレベルで推移する。

上位疾患構成図



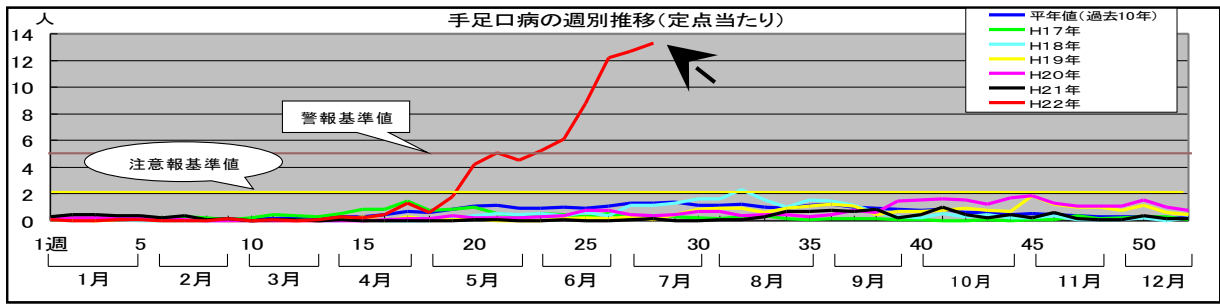
地域別感染症注意報・警報発生状況

第27報（2010年7月5日~2010年7月11日）



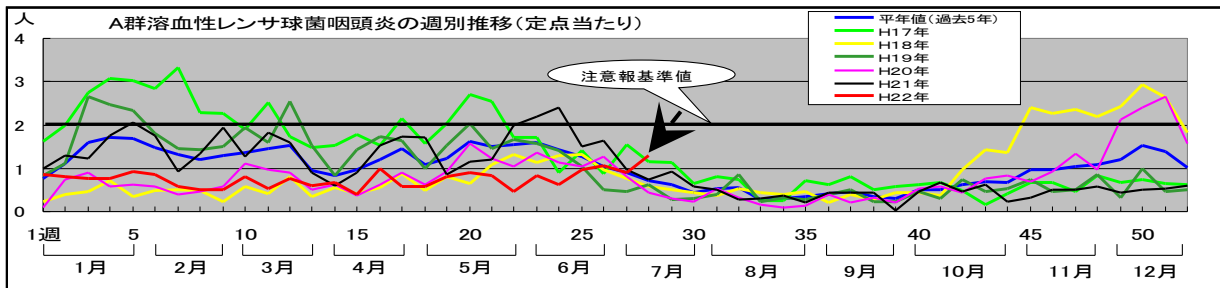
手足口病：今週13.33（注意報値：2.00 警報値：5.00）

減少している地域もあるが，総数はさらに増加した。前週から増加幅は緩やかになっており，まもなく流行のピークを迎えると思われるが，搬入された検体からはEnterovirus 71が7件検出されており，今後も引き続き警戒が必要である。年齢別にみると，0~4歳の報告が全体の約7割を占めている。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：今週1.30（注意報値：2.00 警報値：4.00）

例年冬季及び春から初夏にかけて、流行する年としない年が隔年でみられており、今年は低いレベルで推移していた。しかし、夏季に向けて減少傾向となるこの時期に増加傾向がみられ、高知市では第26週以降注意報値を越す流行となっている。今後の推移が注目される。



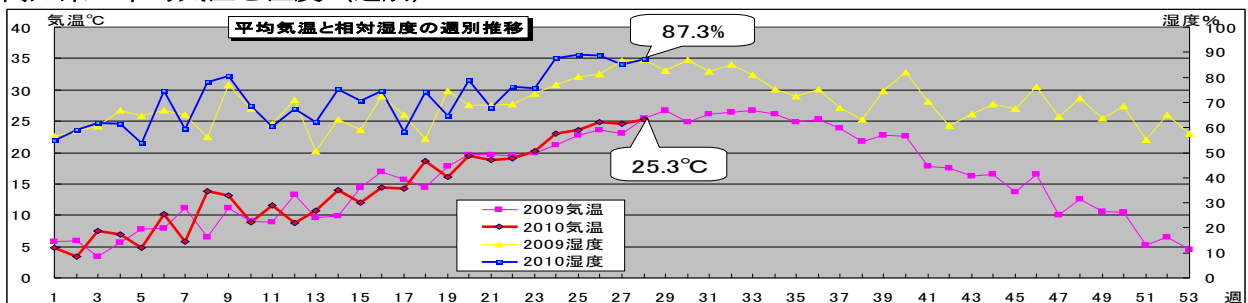
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
27	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6歳女	高 幡	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-UT
28	感染性胃腸炎	5歳女	中央東	<i>Campylobacter jejuni</i>
21	肺炎	1歳男	高知市	<i>Enterovirus 71</i>
27	手足口病	5歳男	高知市	<i>Enterovirus 71</i>
27	無菌性髄膜炎	5歳女	高知市	<i>Enterovirus 71</i>
27	手足口病	6歳男	高 幡	<i>Enterovirus 71</i>
27	手足口病	8歳女	高 幡	<i>Enterovirus 71</i>
27	ヘルパンギーナ	3歳女	高 幡	<i>Enterovirus 71</i>
27	ヘルパンギーナ	1歳女	高 幡	<i>Enterovirus 71</i>

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 4例（70歳男，56歳女，9ヵ月男：無症状病原体保有者）《高知市》
 （79歳女）《中央東》（今年83例）
 4類感染症：日本紅斑熱 1例（64歳女）《安芸》（今年1例）
 5類感染症：クロイツフェルト・ヤコブ病 1例（81歳男）《高知市》（今年3例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《さたけ小児科》：膿痂疹 5例（1～9歳男女） 口唇ヘルペス 1例（5歳女）
 マイコプラズマ感染症 1例（14歳男）

高幡：

《もりはた小児科》：滲出性扁桃炎（アデノウイルス） 2例（1,6歳女） 帯状疱疹 1例（3歳男）

中央西：

《石黒小児科》：带状疱疹 1例（8歳女）
《くぼたこどもクリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（4歳男）
《岡本内科》：マイコプラズマ肺炎 1例（7歳女）

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：カンピロバクター腸炎 2例（65歳女，10歳男）
アデノウイルス扁桃炎 1例（2歳女）
百日咳の1例（35歳女）は東浜株2560倍，山口株2560倍

中央東：

《早明浦病院小児科》：手足口病，伝染性紅斑が小中学校で流行中

全国情報第26週（6/28～7/4）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核357例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症86例（有症者60例、うちHUSなし）、パラチフス2例

4類感染症：E型肝炎2例、つつが虫病3例、デング熱3例、マラリア2例、レジオネラ症23例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、クリプトスポリジウム症3例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群21例（AIDS 4例、無症候16例、その他1例）、ジアルジア症1例、梅毒8例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん2例、麻しん14例

報告遅れ：日本紅斑熱1例、レジオネラ症1例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例

◆ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナ（Herpangina）は、発熱、口腔粘膜に現れる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に夏季に流行する疾患である。病原ウイルスは主にコクサッキーウイルスA群（CA2、CA4、CA5、CA6、CA10等）である場合が多いが、まれにコクサッキーウイルスB群、エコーウイルスで発症する場合もある。

感染から2～4日の潜伏期間の後に、突然の発熱に続いて咽頭痛が出現、咽頭の発赤とともに、主として軟口蓋から口蓋弓にかけての部位に直径1～2mm、場合により大きいものでは5mmほどの紅暈で囲まれた小水疱が出現する。小水疱はやがて破れて浅い潰瘍となる。発熱は2～4日間程度で解熱し、やや遅れて粘膜疹も消失する。発病者の殆どは予後良好の疾患であるが、エンテロウイルス感染症の特徴として、まれに無菌性髄膜炎や急性心筋炎を合併することがある。発熱以外に頭痛、嘔吐等の症状や、心不全徴候の出現には十分に注意すべきである。

特異的な治療法はなく、発熱や頭痛に対する対症療法が中心となるが、時に脱水に対する治療が必要となることがある。急性期のみの登園・登校停止では厳密な流行阻止効果は期待できないが、幼児期までに大半の者が罹患する疾患であり、また大部分が軽症であることから、登園・登校については手足口病と同様に、流行阻止の目的というよりも患者本人の状態によって判断すべきである。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいてヘルパンギーナをはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。2010年のヘルパンギーナの報告数は、第19週以降増加が続いており、第26週の定点当たり報告数は4.16（報告数12,601）と前週の定点当たり報告数（2.87）よりも大幅に増加した。都道府県別では徳島県（9.54）、愛知県（6.85）、大分県（6.69）、神奈川県（6.55）、千葉県（6.43）、秋田県（5.94）、東京都（5.91）、福井県（5.91）の順となっている。鳥取県、島根県、福岡県、宮崎県、沖縄県を除く42都道府県で前週よりも増加がみられている。

2010年第1～26週までの定点当たり累積報告数は13.63（累積報告数41,308）であり、年齢別では1歳25.1%（10,371）、2歳20.6%（8,498）、3歳17.2%（7,096）、4歳13.2%（5,437）、5歳8.1%（3,342）、0歳6.5%（2,698）の順となっており、5歳以下で全報告数の90%前後を占めていることは例年と同様である。

ヘルパンギーナの流行のピークは7月の中旬以降となることが多く、2000年から2009年までの過去10年間の流行のピークは第27週1回、第28週4回、第29週3回、第30週1回、第31週1回であった。ヘルパンギーナの流行は間もなくピークを迎えるものと考えられるため、その発生動向には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(27週)	高知県(28週未累計) H22/1/4~H22/7/18
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ									192 (0.04)	2,546 (53.04)
小児科	咽頭結膜熱			2				2 (0.07)	7 (0.23)	1,094 (0.36)	63 (2.10)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	28	3	3	2	39 (1.30)	27 (0.90)	3,604 (1.19)	635 (21.17)
	感染性胃腸炎	8	17	31	14	1	17	88 (2.93)	80 (2.67)	11,555 (3.80)	6,816 (227.20)
	水痘	1	10	19	4	2		36 (1.20)	57 (1.90)	4,508 (1.48)	1,282 (42.73)
	手足口病	17	64	218	18	20	63	400 (13.33)	379 (12.63)	11,727 (3.86)	2,330 (77.67)
	伝染性紅斑		5	7				12 (0.40)	10 (0.33)	1,835 (0.60)	115 (3.83)
	突発性発疹		5	7	1		2	15 (0.50)	14 (0.47)	2,039 (0.67)	336 (11.20)
	百日咳			1				1 (0.03)	2 (0.07)	153 (0.05)	37 (1.23)
	ヘルパンギーナ	2	13	27	15	2	3	62 (2.07)	69 (2.30)	17,694 (5.82)	792 (26.40)
	流行性耳下腺炎			1			2	3 (0.10)	1 (0.03)	4,636 (1.53)	134 (4.47)
	RSウイルス感染症									176 (0.06)	760 (25.33)
	眼科	急性出血性結膜炎									14 (0.02)
流行性角結膜炎									2 (0.67)	479 (0.71)	34 (11.33)
基幹	細菌性髄膜炎								1 (0.14)	3 (0.01)	7 (1.00)
	無菌性髄膜炎									15 (0.03)	8 (1.14)
	マイコプラズマ肺炎			4				4 (0.57)	1 (0.14)	188 (0.41)	43 (6.14)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2 (0.29)	2 (0.29)	6 (0.01)	15 (2.14)
計 (小児科定点当たり人数)	28 (14.00)	117 (16.71)	347 (31.00)	55 (18.33)	28 (14.00)	89 (17.80)	664 (21.93)				
前週 (小児科定点当たり人数)	23 (11.50)	94 (13.43)	317 (28.27)	78 (26.00)	38 (19.00)	102 (20.40)		652 (21.53)	59,918	15,955 (496.38)	

定点当たり

第28週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(27週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ									0.04
小児科	咽頭結膜熱			0.18				0.07	0.23	0.36
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	2.55	1.00	1.50	0.40	1.30	0.90	1.19
	感染性胃腸炎	4.00	2.43	2.82	4.67	0.50	3.40	2.93	2.67	3.80
	水痘	0.50	1.43	1.73	1.33	1.00		1.20	1.90	1.48
	手足口病	8.50	9.14	19.82	6.00	10.00	12.60	13.33	12.63	3.86
	伝染性紅斑		0.71	0.64				0.40	0.33	0.60
	突発性発疹		0.71	0.64	0.33		0.40	0.50	0.47	0.67
	百日咳			0.09				0.03	0.07	0.05
	ヘルパンギーナ	1.00	1.86	2.45	5.00	1.00	0.60	2.07	2.30	5.82
	流行性耳下腺炎			0.09			0.40	0.10	0.03	1.53
	RSウイルス感染症									0.06
	眼科	急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎									0.67	0.71
基幹	細菌性髄膜炎								0.14	0.01
	無菌性髄膜炎									0.03
	マイコプラズマ肺炎			0.80				0.57	0.14	0.41
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.40				0.29	0.29	0.01
計 (小児科定点当たり人数)	14.00	16.71	31.00	18.33	14.00	17.80	21.93			
前週 (小児科定点当たり人数)	11.50	13.43	28.27	26.00	19.00	20.40		21.53		

2010年週報推移(定点当たり)

